全国学童保育連絡協議会

日本の学童ほいく 普及拡大ニュース

みんなで読もう！ 目標 3万6000部

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。みんなで読んで、語って、楽しみながら、よりよい学童保育をつくっていきましょう。

2022年6月21日

元気が出るみんなの取り組みをご紹介

楽しく普及拡大

祝 10周年！！
祝「ほいく誌部会」創設！
広がれ普及拡大の思い！

福島県の取り組み

「ほいく誌部会」の創設、方針に「ほいく誌」の普及を掲げる

福島県学童クラブ連絡協議会では、2022年度から役員組織のなかに「ほいく誌部会」という場を設けました。県連協設立10周年を経て、役員の役割の見直しを図り、その一環として「ほいく誌部会」をつくりました。活動方針では「研修、交流、財政基盤確立のために『日本の学童ほいく』の普及に努めます。読者会を開催し、学びと交流の場にします」と掲げています。

この方針に沿って、普及拡大のための活動に努め、組織の強化にもつながればよいと思います。

① 第一に、指導員（放課後児童支援員）の購読をすすめる

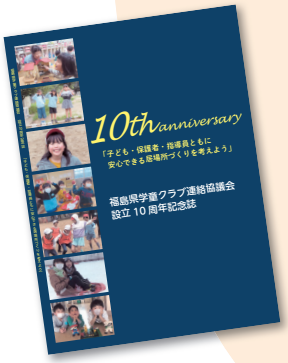
指導員のなかにはまだまだ未購読の人が多いことをふまえ、指導員の全員購読を推奨していきます。ある連協では、「支援員部会」の研修（月1実施）参加には年間購読を必須としているところもあります。さまざまな普及拡大の取り組みやアイデアを紹介していきます。

② 定期的に読者会を開催し、参加者の交流を深める

読者会を開催し、テーマを設けたトークや、フリートークの場を提供していきます。

③ 担当行政へ「ほいく」誌の紹介を継続して行う

県内には、13市・31町・15村があり、現在は5市・6町・1村での購読にとどまっています。公設公営の学童保育の多い福島県では、きめ細やかな行政へのアプローチ、継続した紹介も大切です。



＊福島県学童クラブ連絡協議会
設立10周年記念誌 表紙イメージ

県連協発足10周年、ほいく誌で綴ったその時々の思い

県連協として10周年の記念誌を発行することになりました。「東日本大震災」後、被害の状況報告や支援に対する感謝の気持ちを、県内各地から『日本の学童ほいく』に綴ってきました。今回記念誌を発行するにあたり、記事一覧といくつかの記事を収録することにしました。10年を振り返るときに、ほいく誌の原稿はその時々の私たちの思いがつまっており記録として残していただいていることに感謝いたします。10周年記念誌は、全国の地域連協にお届けしますので、ぜひごらんください。

日本の学童ほいく6月号

特集 子どもをまんなかに
——学童保育指導員の連携・協力・学びあい

指導員の「連携・協力・学びあい」は、学童保育の生活づくりの内容に大きな影響を与える課題でもあります。今回の特集では、各学童保育での取り組みや、保護者の思い・願いを交流し、あらためて「指導員の連携・協力・学びあい」の大切さについて学びあいます。

全国学童保育連絡協議会

日本の学童ほいく 普及拡大ニュース

みんなで読もう目標 3万6000部

2022年6月21日

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。

読者の声

滋賀県栗東市●保護者から

学童保育に通っていると、親からは教えてあげられなかった遊びを学んで帰ってくることがあります。私も主人も将棋ができなかったので、家に将棋セットはありませんでした。ある日、わが家の小学三年生と一年生の兄弟をお迎えに行くと、一年生の弟が学童保育のお兄ちゃんに教えてもらいながら将棋をしていておどろきました。家に帰ってからも、将棋を知らない私に一生懸命、おぼえたての駒やルールを教えてくれる目が輝いていて、思わず将棋セットを購入してしまいました。そうなると、「私も一緒にしたい」と思い、ルールを読んで対戦します。「まだ一年生と三年生だから……」などと思っていたら、動きを先読みして駒をさす姿に、とてもおどろきました。こちらも真剣勝負なのですが、勝てないときがあるのです。「捨て駒作戦」にまんまとはまってしまいます。将棋盤を挟んで考えこむ姿はまだ幼いのに、しっかり勝負してくるのです。学童保育に行っていなければ、将棋のおもしろさを伝えることはできなかったと思いますし、勝手な思いこみで「将棋なんてむずかしいことはまだできないだろう」と決めつけていたと思います。子どもはさまざまな人に成長するきっかけをもらって育っていくのだなと思いました。

（『日本の学童ほいく』2022年5月号「読者のひろば」より）

山形県東根市●保護者から

通学路の雪もとけはじめ、歩きやすい道路になり、春が近づいてきている……とうれしく感じます。

娘に「学童保育に新しく入る子、何人かな」と尋ねてみると、「わからない～」とそっけなく。でも、「○○ちゃんは、あんまり来なくなるって」とさみしそうに話していました。

別れと出会いの三月・四月、感情がゆさぶられる娘を見て、「がんばれ、大丈夫」とはげます日々です。

（『日本の学童ほいく』2022年6月号「読者のひろば」より）

全国連協役員リレー執筆・今月は岩手の指導員 嘉村祐之さん

私と「ほ・い・く・誌」

私が勤務している学童保育は、保護者会が運営しています。運営を担う保護者の皆さんは「わが子が学童保育に入ることができて、本当に安心して働くことができている。新1年生の入所を断らざるを得なくなるようなことはしたくない」という思いで、3か所の学童保育所を設立し、運営しています。保育を行う施設の確保は運営者が行わなければならないので、保護者が力をあわせて、学区内で場所を見つけお借りし、運営しています（その結果、それぞれの学童保育所は、子どもの足で15分から20分くらいかかる距離のところにあります）。

2022年4月には待望の新しい正規職員を迎えることができました。2021年度、3番目の学童保育の開設にともなって増員が必要になり、ハローワークや求人誌、求人サイトに情報を出したのですが、なかなか条件が折りあわずに欠員を抱えながらの運営でしたので、ようやく体制が整ったのです。新任職員とはいえ担ってもらうことがおおくありますが、長く働いてもらううえで、新任研修をしっかり行うことが大切です。そこで、まず読んでもらったのが『日本の学童ほいく』に書かせてもらった私の記事でした。指導員がチームとして協力しあいながら子どもたちに向きあうという基本的な姿勢と、そのために欠かせない打ちあわせについてのイメージを持ってもらうには、コンパクトに読めてちょうどよかったのではないかと思っています。

編集・発行 全国学童保育連絡協議会 〒113-0033 東京都文京区本郷2-26-13 TEL●03-3813-0477 FAX●03-3813-0765
E-mail●zghrk@xui.biglobe.ne.jp http://www2s.biglobe.ne.jp/~Gakudou